

マルハニチログループ水産資源調査の実施

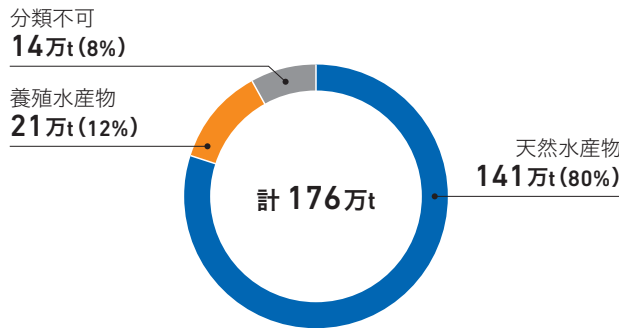
マルハニチログループでは「サステナブルな企業グループ」として、持続可能な調達を実践するため、マルハニチログループ各社の製品、原材料について、水産物取扱量の現状把握、天然水産物の資源状態を評価する調査を実施しました。

■ 水産物取扱量の現状把握

マルハニチロ(株)全事業部・8直営工場、国内グループ31企業、海外グループ17企業が、2019年4月から2020年3月にマルハニチログループ外から調達した原料、製品を対象に、水産物の取扱量を把握する調査を行いました。調査内容は、魚種名(学名)、原産国、漁獲海域(FAO区分)、重量(原魚換算)、漁法としました。

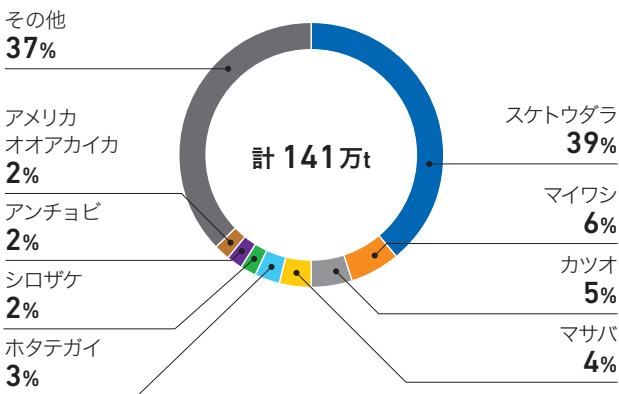
※海外グループ企業は2019年1～12月を対象
 ※対象製品に、マルハニチログループ自社養殖魚(約1.2万トン)は含まず、養殖に使用する魚粉などの飼料は含む
 ※荷受ユニットは自社輸入製品、自社加工製品、買付品のグループ内販売製品のみを対象

● 調査結果：取扱水産物全体

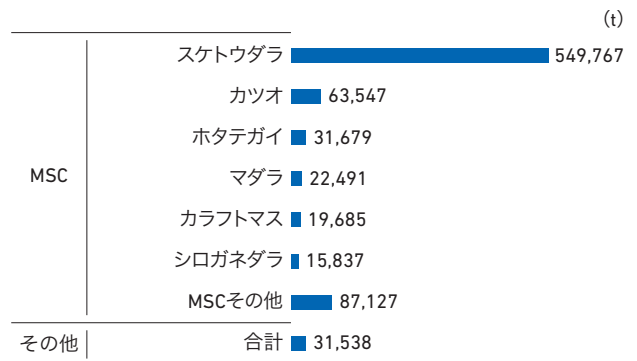


マルハニチログループ全体の水産物の取扱いは原魚換算で約176万トンとなりました。これは2018年世界の漁業・養殖水産物生産量の約0.8%相当になります。取扱魚種は学名で約360種となり、原産国数は全世界196カ国中76カ国となりました。一方、飼料原料である魚粉を中心に魚種が不明な水産物が約14万トンあることが判明し、これらを明らかにしていくことは重要な課題です。

● 調査結果：取扱量の多い魚種(天然)

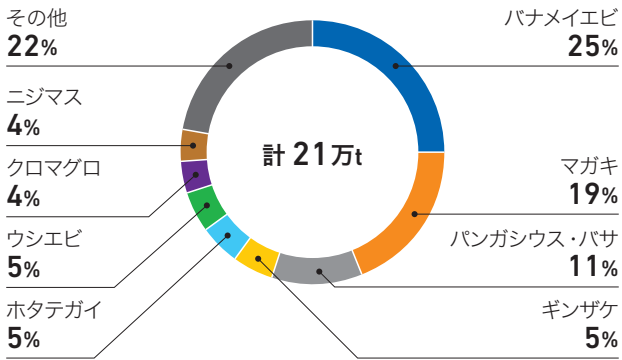


● 認証されている持続可能な水産物(天然)

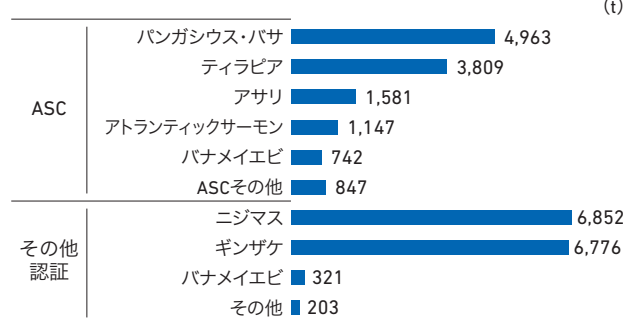


天然水産物の取扱いは約141万トンとなり、スケトウダラ、マイワシ、カツオ、マサバなど上位8魚種で全体の63%を占めています。また約141万トンのうち59%に該当する約82万トンがMSCをはじめとした持続可能であるとして認証された漁業で獲られた水産物であることがわかりました。MSC認証をはじめとする持続可能な認証取得水産物においては、スケトウダラが約55万トンともっとも多く、これは認証取得漁業で獲られたすべての天然水産物の約67%を占めています。次いで、カツオ、ホタテガイが多い結果となりました。

● 調査結果：取扱量の多い魚種(養殖)



● 認証されている持続可能な水産物(養殖)



※本調査は、マルハニチログループ自社漁労含むグループ外からの調達品を対象としているため、養殖水産物には自社養殖生産量(クロマグロ4,360トン、カンパチ2,500トン等約12,000トン)は含まれていません。

養殖水産物の取扱いは合計約21万トンとなり、バナメイエビ、マガキ、パンガシウス・バサ、ギンザケなど上位8魚種で全体の78%を占めています。天然水産物と比較して、養殖水産物の認証取得水産物は割合が少なく、13%に該当する約2.7万トンにとどまりました。

■ 天然水産物の資源状態評価

天然水産物の資源状態を評価するため、認証された漁業で獲られた水産物であるかを確認するとともに、集計した調査結果を外部機関(Sustainable Fisheries Partnership)に送り、同機関が管理する国際的な資源評価データベース「FishSource」^{*}による評価結果を踏まえ、科学的見地を重視して、総合的に資源状態の評価を行いました。

^{*}「FishSource」：各国行政機関の水産資源情報等をもとに開発された国際的な資源評価データベース

持続可能な漁業認証にもとづく資源状態評価

「天然水産物」のうち、持続可能であるとして認証された漁業で獲られた水産物を「資源状態に心配なし」に分類しました。

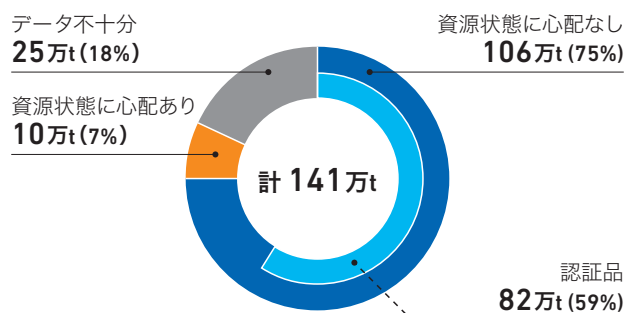
「FishSource」による評価結果を踏まえた資源状態評価

「天然水産物」を国際的な水産資源評価データベース「FishSource」で資源状態、漁業管理体制など下記5項目を評価(各々10点満点でスコア化)し、以下の3種に分類しました。

- スコア1.管理戦略の予防原則に対する準拠性
- スコア2.管理者の科学的根拠に対する準拠性
- スコア3.漁業者のコンプライアンス
- スコア4.現在における資源の健全性
- スコア5.将来における資源の健全性

- ①現時点で資源状態に心配がない、漁業管理体制に問題がないと評価(スコア4が6点以上、かつ、スコア1-5の平均点が6点以上の場合)されたものを「資源状態に心配なし」に分類
- ②現時点で資源状態に心配がある、漁業管理体制が不足していると評価(スコア4が6点より小さい場合、あるいはスコア1-5の平均点が6点より小さい場合)されたものを「資源状態に心配あり」に分類
- ③データベースに情報が不足しているものを「データ不十分」に分類

● 天然水産物の資源状態



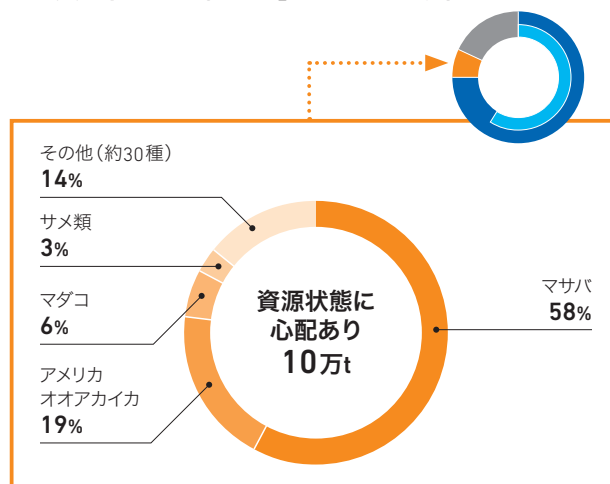
資源状態の評価結果：「資源状態に心配なし」

資源状態を評価した結果、漁業認証取得水産物約82万トンに加えて、約24万トンの天然水産物についても現時点で資源状態に心配がないという評価となり、これらを合計した約106万トン「資源状態に心配なし」に分類しました。

資源状態の評価結果：「資源状態に心配あり」

7%に該当する約10万トンは「資源状態に心配あり」と評価しました。資源状態に心配がある魚種の上位3種はマサバ、アメリカオオアカイカ、マダコです。マサバは、スコア1-5のいずれも6点付近となりましたが、平均で6点未満であり、水産庁の令和2年度魚種別資源評価の結果においても、漁獲圧が最大持続生産量(MSY)を達成する漁獲圧を上回り、資源量がMSYを達成する資源量を下回ることが報告されています。アメリカオオアカイカはスコア4、5の現在・将来における資源の健全性、マダコはスコア5の将来における資源の健全性が低い評価となったため、「資源状態に心配あり」と評価しました。

● 「資源状態に心配あり」10万トンの明細



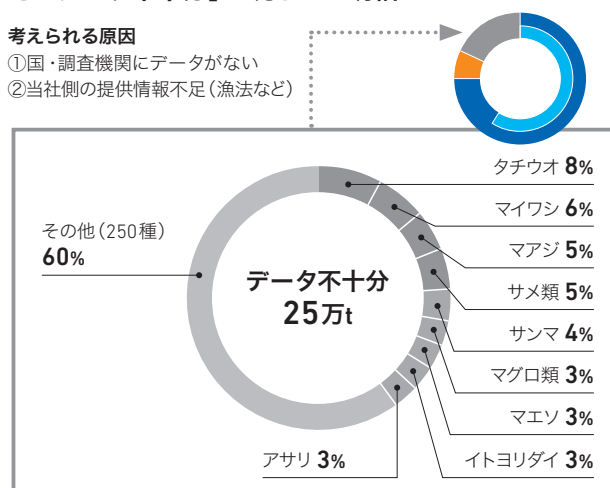
資源状態の評価結果：「データ不十分」

18%に該当する約25万トンは資源状態を評価するためのデータが不足していることが判明しました。これらは、国や調査機関にデータが十分でないもの、あるいは漁法など当社からの提供情報不足により、資源状態を評価することができませんでした。

● 「データ不十分」25万トンの明細

考えられる原因

- ①国・調査機関にデータがない
- ②当社側の提供情報不足(漁法など)



絶滅危惧種の取扱い

今回の調査の結果、取扱天然水産物の一部に、IUCN (国際自然保護連合) で定められた絶滅危惧種 I 種に該当する魚種が含まれていることが判明しました。マルハニチログループとして、資源回復計画がある、あるいは漁業管理ルールにのっとり漁獲されているものについては引き続き動向を注視しつつ取扱いを継続していきます。それ以外の魚種については、取扱いの見直しを検討していきます。

絶滅危惧種の取扱い(調査時点 2020年7～9月)

Red List 評価	環境省評価	魚種	学名	重量(t)	調達国	備考
CR [※] (近絶滅種)	絶滅危惧種 I 類	ミナミマグロ	Thunnus maccoyii	136	ニュージーランド	資源回復計画あり
EN [※] (絶滅危惧種)	絶滅危惧種 I 類	タイセイヨウクロマグロ	Thunnus thynnus	10	アメリカ、スペイン、 ギリシャ、日本	資源回復計画あり
EN [※] (絶滅危惧種)	絶滅危惧種 I 類	アラスカキチジ	Sebastes alascanus	3	アメリカ	取扱い見直しを検討
EN [※] (絶滅危惧種)	絶滅危惧種 I 類	ニベ	Japanese meagre	9	日本	取扱い見直しを検討

※CR：IUCN (国際自然保護連合) のカテゴリー Critically Endangered (CR)

※EN：IUCN (国際自然保護連合) のカテゴリー Endangered (EN)

今後の課題

今回の調査により、マルハニチログループが取り扱う水産資源における強みと課題が明確になったものと認識しています。「資源状態に心配なし」と評価された天然水産物の中でも、持続可能な漁業認証取得水産物は約82万トンとなり、天然水産物全体の59%を占めることがわかりました。これらをマルハニチログループの強みであると認識し、今後も継続的に資源状態を確認するとともに、持続可能な漁業認証取得水産物の取扱いを推進していきます。一方、「資源状態に心配あり」は約10万トン、「データ不十分」は約25万トンあることが判明しました。今後、現時点で資源状態に心配がある水産物の回復計画などを調査し、必要に応じて支援すること、データが不足している魚種について Sustainable Fisheries Partnership の調査に協力していくことを課題と認識しています。

また、ASCをはじめとする持続可能養殖認証水産物は、約2.7万トンにとどまること、魚種の分類ができない分類不可が約14万トンあることがわかりました。今後認証取得水産物を増加させていくこと、分類不可の魚種を明らかにしていくことも重要な課題です。

マルハニチログループは、グループで取り扱う水産資源における強みの維持、あるいは拡大を検討するとともに、明らかになった課題の解消に努めていきます。